

第2回 名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会

日時 令和7年2月4日（火）14:00～16:00

場所 名古屋市都市センター 11 階 ホール

次 第

1. 開会

2. 住宅都市局長あいさつ

3. 議事

議事 1.まちづくり構想策定に向けて

議事 2.今後の進め方

4. その他

- ・三の丸チャレンジ（社会実験）結果

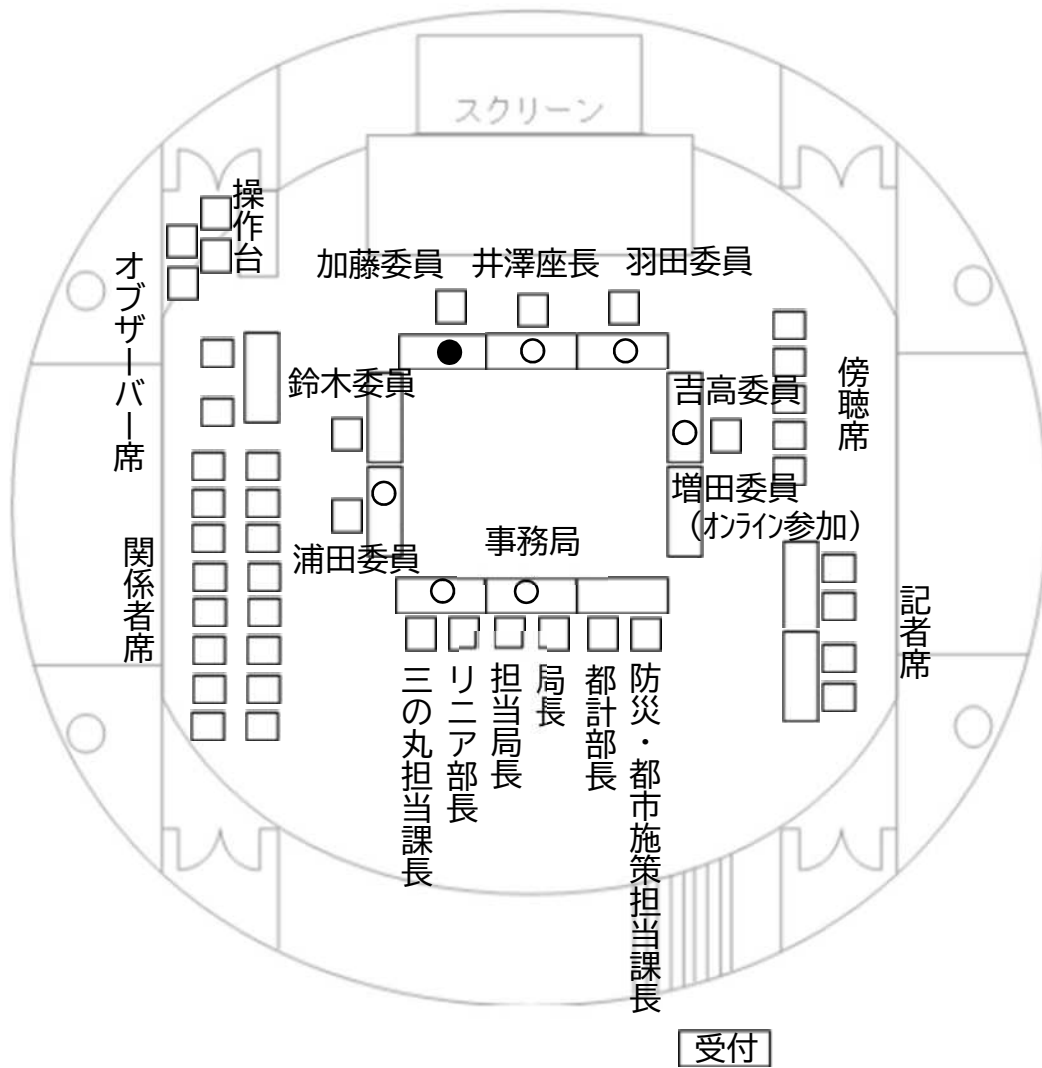
《配布資料》

- ・配席図
- ・委員名簿

説明資料はこちら



配席図



凡例

- 机
- 椅子
- 無線マイク
- 有線マイク

名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏名	所属	備考
井澤 知旦	名古屋学院大学 名誉教授	
浦田 真由	名古屋大学大学院 情報学研究科准教授	
加藤 義人	岐阜大学 客員教授	
鈴木 弘司	名古屋工業大学大学院 工学研究科教授	
羽田 俊之	独立行政法人都市再生機構 中部支社 都市再生業務部長	
増田 幸宏	芝浦工業大学 環境システム学科教授	オンライン 参加
吉高 まり	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 フェロー（サステナビリティ）	

第2回 名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会

■ 開催日 2月4日(火)

■ 時 間 14:00~16:00

■ 場 所 名古屋都市センター11階ホール

(議事)

議事.1 まちづくり構想策定に向けて

議事.2 今後の進め方

(その他)

報告 三の丸チャレンジ(社会実験)結果

議事1.まちづくり構想策定に向けて

議事１ まちづくり構想策定に向けて

第2回 有識者懇談会の内容

第1回懇談会
(R6.9.9)

1. はじめに

構想策定の背景・目的、構想の役割、対象範囲 など

2. 地区の特性(現状・課題)

立地特性、都市基盤、地域資源、各種規制 など

3. 新たな潮流や社会情勢の変化等

新たな潮流や社会情勢の変化、まちづくりの方向性 など

4. めざすまち

- 理念
- 基本方針
- めざすまち

今回

5. めざすまちの実現に向けて

- まちづくりの進め方
- 組織・推進体制
- ロードマップ
- アクションプラン(短期)

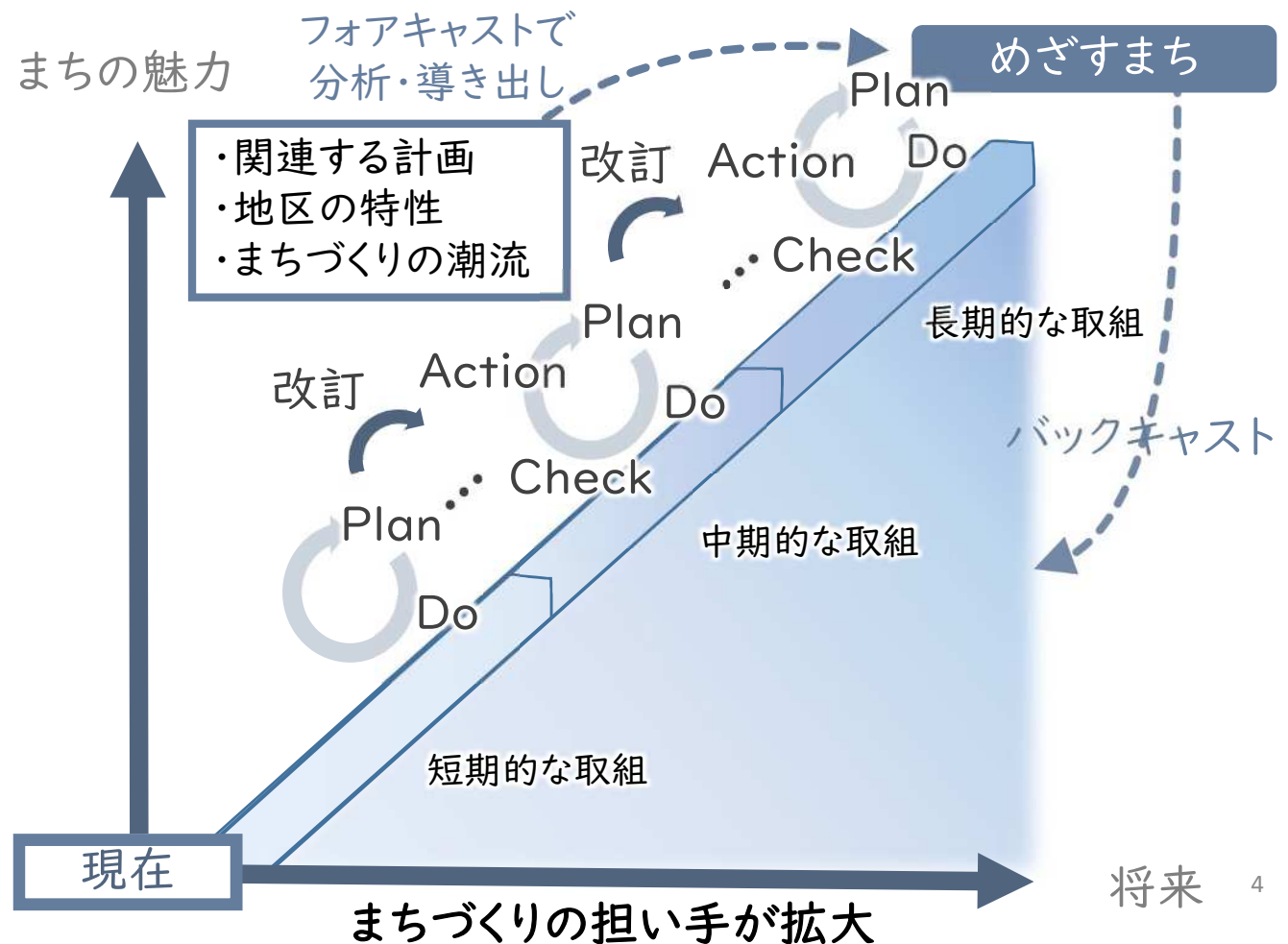
前回の振り返り

○構想策定の背景・目的

- 久屋大通など地区周辺で魅力向上が進んでいる。
- 地区内の建物が更新期を迎える機会を捉えて、地区の魅力向上を図り、周辺地区との連携を強化し、リニア時代の愛知・名古屋の新たな顔として地区を成長・発展させていくため、めざすまちなどを示すものとして策定する。

○構想の役割

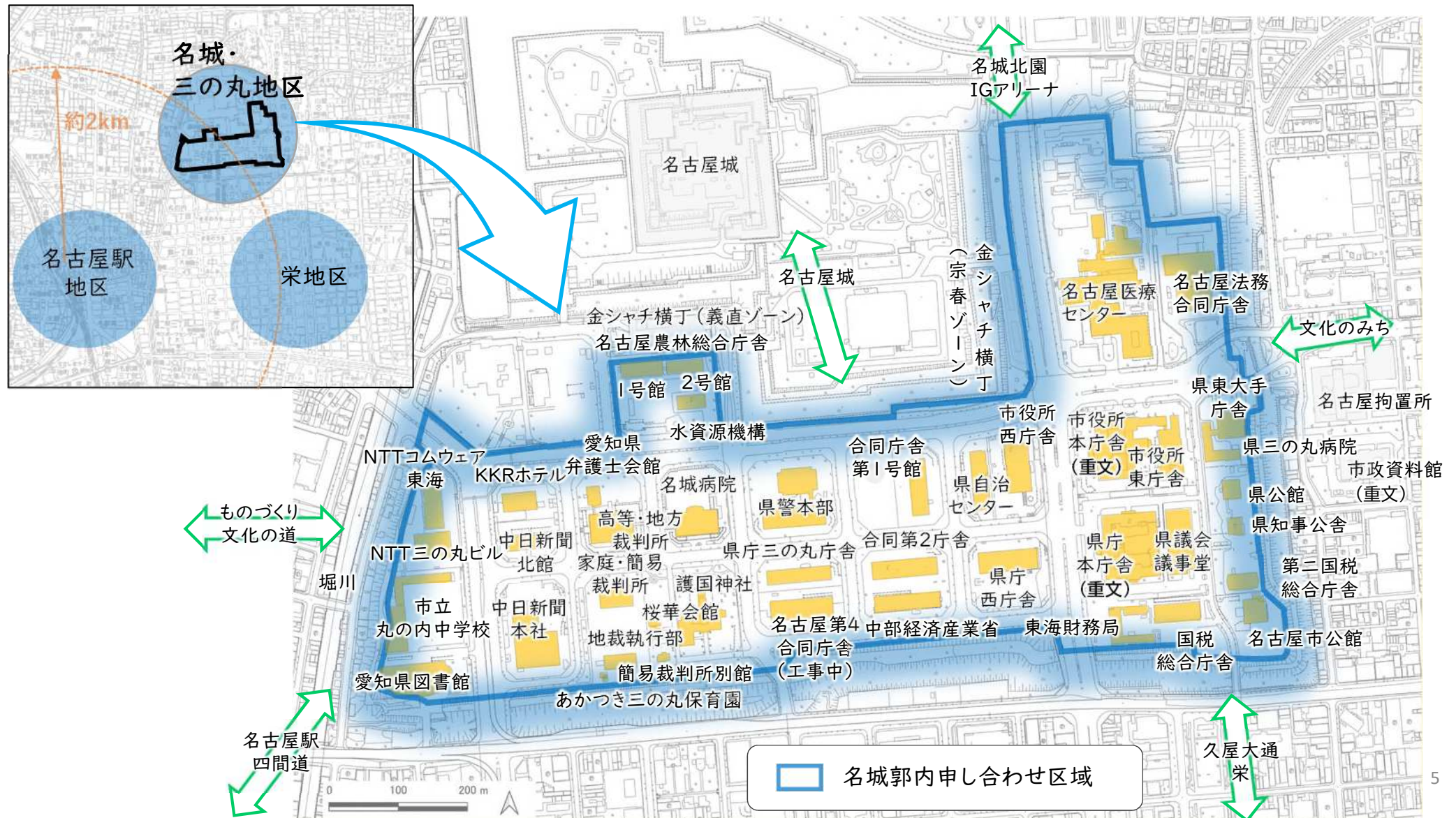
- 関係者を増やしながら一体となってまちづくりを進めるための指針。
- 段階的にめざすまち（概ね30年後）を実現していくため、改訂（バージョンアップ）していく。



前回の振り返り

○まちづくり構想の対象範囲

- 地区独自の建築ルールである名城郭内申し合わせ区域を基本としながらも地区周辺との連携を意識した範囲とする。



前回の振り返り

○ 第1回 有識者懇談会での主な意見

事項	意見概要
レジリエンス・サステナビリティを まちの魅力に	国内外に向けたレジリエンス※1の打ち出し。 リジェネラティブ※2で価値を創出。
まちを開く	市民や観光客にどのようにまちを開くか。
世界を牽引	世界を引っ張っていくくらいの視野で検討を。
訪れたいまちへ、人を呼び込む	三の丸でしかできない体験を。 MICE機能を導入し、滞留を増やす。
働きたいエリア、経済活動をつくる	働きやすいエリアに。民間投資や新たな人を呼び込む。 都心である以上、経済活動を備える。
移動とアクセスを改善	SRTの活用。自動運転・中速モビリティを取り込んだまちづくり。
歴史・本物を活かす	重文の活用。城が見えるまちづくりを展開。三大祭の復活。
魅力的な景観を形成	建物群としての景観づくりが課題。 豊かなみどりを活かした特徴づけができる。
コミュニティ活動をつくる	組織や立場を超えて、エリアを議論する「三の丸町内会」を つくって活動。

※1 レジリエンス:持続可能な成長・幸福度などを確保するために困難な逆境に対し柔軟かつ効果的に適用し、回復する能力を備える

※2 リジェネラティブ:今あるものを使うだけではなく、再生成し新しいものをつくる

前回の振り返り（まちづくりにおける基本的な考え方）

清州越しによる名古屋城の築城に始まり、戦後より形作られた現在の三の丸地区が成熟し更新期を迎えつつある中、リニア開業も見据えて周辺のまちづくりが進展

中部、愛知、名古屋の飛躍やシビックプライドの醸成に向け、行政拠点としての進化に加え、観光交流拠点として変化させるべく、空間の質の向上や必要となる機能の導入を図り、市民の誇りとなる地区（＝訪れたいくなる、連れてきたいくなる、関わりたいくなる、働きたいくなる、）を目指す

前回の振り返り（まちづくりにおいて考慮すべき観点）

レジリエンス & リジェネラティブ（サステナブル）

- 安全・安心、脱炭素、気候変動や生物多様性に資する取組み（環境性能の高い建築物、再生可能エネルギー、高効率かつ強靱なエネルギーシステム、グリーンインフラ）をあらゆる場面で実装

シビックプライド、都市魅力、ウォークابل

- 多様な属性※の方が居心地よく過ごせるよう、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの取組みはもとより、必要となる施設や機能、ソフトやハードの多様なコンテンツをまちづくりに実装・発信

※多様な属性とは、
地域（市内、県内、国内、海外）、世代（老若男女）
目的（通勤、ビジネス、余暇、観光、交流、体験）などをいう

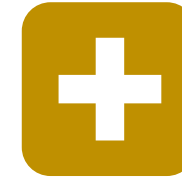
多様な主体の参画

- 地権者はもとより市民や企業等の多様な主体の参画により、まちの賑わいや魅力を創出するとともに、持続的なまちづくりを推進

前回の振り返り(ねらい、達成したいこと)

- 名古屋城をはじめとする地域資源の魅力向上や観光、交流、交通等の機能を付加し、都市の奥行と多様性を創出させる

今ないものを付加する『変化』



ポイント1: 歴史・文化(名古屋城、史跡、重要文化財)や自然的環境(お堀)などの地域資源、中部の魅力資源をどのように有効活用するか

- 名古屋城の眺望確保、重要文化財に飲食や宿泊を導入、まちづくりルール

ポイント2: 滞在性の向上に資する機能の選定や導入をどのように進めるか

- 芝生広場、道路空間の活用、ベンチ+テーブル、ホテル、MICE、物販、飲食、土産、体験、アクティビティ、庁舎建築と新機能合築、外構部分の利活用

ポイント3: 地区内や周辺拠点との回遊性をどのように創出するか

- SRT、道路空間の再編、高質な歩行者空間、MaaS、堀川との連携、観光案内機能、交通ターミナル、グリーンスローモビリティ、シェアサイクル、久屋大通や四間道・円頓寺、文化のみちなど周辺拠点との連携

前回の振り返り（ねらい、達成したいこと）

- 国県市の連携はもとより、民間との連携強化を図り、率先した社会課題解決や魅力向上、情報発信を行い、人口減少局面を迎える中でも成長と活力を生み続ける

今あるものを伸ばす『進化』



ポイント1：行政機能の集積などのポテンシャルをどのように高めるか

- 行政拠点の強化につながる機能（脱炭素化、DCP（地域継続計画））基盤整備、ポテンシャルの掘り起こし・情報発信

ポイント2：公民共創の強化をどのように進めるか

- 地権者間の協力による建物更新（移転改築）＋規制見直し、場づくり（コワーキングスペースなど）、人材育成

ポイント3：まちづくりに向けた検討・推進体制をどのように強化するか

- コーディネーターを加え推進体制を強化、徐々に外部の主体の参画を促す

4.めざすまち

○まちづくりの理念

歴史を魅せ 未来を見せる 名古屋城三の丸

～変化と進化で官庁街をひらく～

リニア時代における巨大交流圏の中心都市として、圏域や国の成長をけん引し、魅力と活力にあふれ、市民の誇りや愛着が高まるまちづくりを進めていくため

- 先人から受継いだ世界に誇る歴史・文化や豊かな自然環境などの資源を活かし、世界の人を魅了します。
- 世界を先導し未来を見せるまちづくりを進め、新たな交流や活動が生まれ、地区で働く人、訪れる人が躍動するまちを目指します。

4.めざすまち

○官庁街を『ひらく』とは

- ・武家屋敷にはじまり官庁街として利用してきた
まちの空間を開放する

- ・周辺地区と三の丸地区をつなぐ
- ・公と民を、人と人をつなぐ

関りを

公共空間を

- ・民間参入のビジネスチャンスを開拓する
- ・あいち・なごやの飛躍のチャンスを開拓する

チャンスを

ひらく

規制を

- ・積極的な実験を通じて現行を見直す
- ・三の丸地区特有の建築規制等を緩和する

情報を

- ・あいち・なごやの魅力を発信する
- ・三の丸ならではのまちづくりの取組みを発信する

潜在能力を

- ・恵まれた立地条件、歴史資源、豊かなみどりなどを
活かしてまちを再生成する

4. めざすまち

歴史を魅せ 未来を見せる 名古屋城三の丸

～変化と進化で官庁街をひらく～

(災害に強く行政機能が集積したまちだからこそ)

【基本方針Ⅰ】先進性で世界をリードするまち

- 1 環境との共生を再構築するリジェネラティブなまち
- 2 レジリエンスを強化する安全・安心なまち

(都心部かつ城郭内という好立地だからこそ)

【基本方針Ⅱ】多様な人々を惹きつけ、人が中心のまち

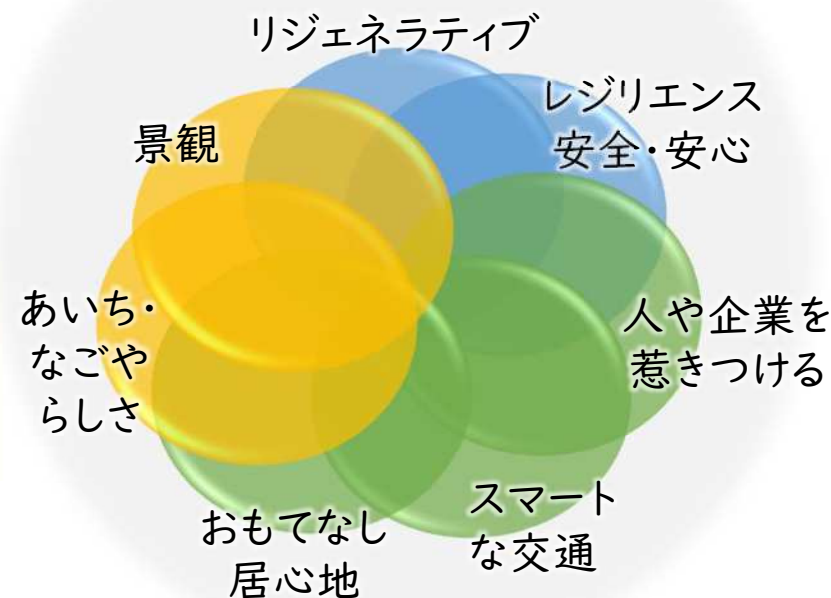
- 3 国内外から人や企業を惹きつける、卓越した価値を発信するまち
- 4 スマートで回遊性の高い便利なまち
- 5 おもてなしが沁みわたる、居心地の良いまち

(多様な歴史・文化を有するまちだからこそ)

【基本方針Ⅲ】三の丸アイデンティティのあふれるまち

- 6 あいち・なごやらしさを体感できるまち
- 7 三の丸ならではの景観のあるまち

多様な主体でつくり育てる



多様な主体でつくり育てる

4. めざすまち

■ めざすまち | 環境との共生を再構築するリジェネラティブなまち（進化)

〈現状〉

- 都心部の中ではみどりが多い
- 様々な生物が生息

〈課題〉

- 脱炭素型まちづくりの推進
- 民間投資の促進

など

など



環境との共生を再構築するリジェネラティブなまち

- 名古屋城の外堀や街路樹など豊かなみどりの再生成により、みどりを身近に感じられる
- 建物の更新に合わせ、先進的な技術やシステム、考え方などを取り入れた脱炭素化したまち

〈新たに備える機能・要素〉

カーボンニュートラルの推進に資する環境整備（水素ステーション、GXなど）
都市化と自然環境保護を両立したグリーンビルディング
スマートエネルギーネットワーク
久屋大通から名古屋城へ続くみどりのネットワーク
環境にやさしい公共交通システム
堀川と外堀を活用したヒートアイランド対策

など

4. めざすまち

■ めざすまち 2 レジリエンスを強化する安全・安心なまち（進化)

〈現状〉

- 名古屋台地に立地
- 行政機能が集積

など

〈課題〉

- 大規模な広域災害に備えた、高い防災性能を有する安全・安心なまちづくり

など



レジリエンスを強化する安全・安心なまち

- 官民連携し建物やインフラ、コミュニティなどハード・ソフト両面で高い防災性能を有する
- 高い業務継続性を魅力に、国内外から人や企業などが集まる
- 災害時には、地区内の行政機関が連携し、広域防災機能が発揮される

〈新たに備える機能・要素〉

災害時に業務機能がストップしない自立・分散型エネルギーシステム
広域防災機能を発揮する拠点設備（インフラ、ライフライン、情報発信）
防災性に優れた建物や公園
オープンスペースを活用した避難、待機場所
防災コミュニティ

など

4. めざすまち

■ めざすまち 3 国内外から企業を惹きつける、卓越した価値を発信するまち（変化 ）

〈現状〉

- 名古屋駅や栄に近い
- 行政機能が集積

など

〈課題〉

- 多様な主体や都市機能の導入
- 新たな交流や活動の創出
- 建築に関するルール等の見直し

など



国内外から企業を惹きつける、卓越した価値を発信するまち

- 国内外の企業等の進出により、交流やイノベーションが生まれるまち
- 三の丸地区にしかないみどり・景観環境を活かしたエリアとしてブランド化し、三の丸地区で過ごしたり、働くことがステイタスで、誰もが働きやすく、働きたいウェルビーイングなまち

〈新たに備える機能・要素〉

MICE施設（ホテル、会議室など）

国内外の民間オフィス

名駅や栄と一線を画す、ゆたかな緑とゆとりのある環境を活かした魅力的な都市環境

イノベーションなどを生み出す交流施設（シェアオフィス、コワーキングスペースなど）

地区のワーカーを支える生活支援施設（保育所、運動施設など）

など

4. めざすまち

■ めざすまち 4 スマートで回遊性の高い便利なまち（変化 ）

〈現状〉

- 公共空間が広い

など

〈課題〉

- 名古屋駅からのアクセス性向上
- 道路空間の有効活用
- 地区内の回遊性の向上

など



スマートで回遊性の高い便利なまち

- 名駅や栄など周辺地区からスムーズにアクセスできる
- 多様なモビリティとDXの活用によりシームレスにつながる

〈新たに備える機能・要素〉

新たな路面公共交通システムSRTの運行

堀川（舟運）との連携

多様な交通の結節点（モビリティハブ）

中速モビリティ（GSMなど）の自動周回運行

DXの活用による回遊性の創出

など

4. めざすまち

■ めざすまち 5 おもてなしが沁みわたる、居心地の良いまち（変化⁺）

〈現状〉

- 公共空間が広い
- 国宝、重要文化財が存在

など

〈課題〉

- 周辺地区との歩行者動線確保
- 名古屋城や重要文化財の利活用、発信
- ウォーカブルなストリートの形成

など



おもてなしが沁みわたる、居心地の良いまち

- 訪れる人や働く人が笑顔になるウォーカブルなまち
- 出会いや交流が生まれ、癒される空間

〈新たに備える機能・要素〉

建物の低層部などへの賑わい施設などウォーカブルな空間
地区の情報発信
歩行者優先の安全で快適な歩道空間
名古屋城の外堀のスケール感や涼しさを体感できる
滞留したくなる居心地よい広場

など

4. めざすまち

■ めざすまち 6 あいち・なごやらしさを体感できるまち（変化⁺）

〈現状〉

- 名古屋城や重要文化財が存在
など

〈課題〉

- 地区および周辺の文化財を活用したまちづくり
- シビックプライドの醸成
など



あいち・なごやらしさを体感できるまち

- 愛知県内の様々な文化・地域資源を幅広く体感できる

〈新たに備える機能・要素〉

愛知、名古屋の食文化、ものづくり文化、伝統文化などを楽しむ
三の丸の象徴である文化イベント・名古屋三大祭の復活
三英傑や尾張徳川家の武家文化などの歴史を学ぶ

など

4. めざすまち

■ めざすまち 7 三の丸ならではの景観のあるまち（変化⁺）

〈現状〉

- 城郭内に立地
- 都心の中ではみどりが多い

など

〈課題〉

- 歴史的な雰囲気を感じる景観形成
- 貴重なみどりを活かした景観形成
- シビックプライドの醸成

など



三の丸ならではの景観のあるまち

- 歴史や風格ある景観を感じられるまち
- 日常的に様々なアクティビティが行われ、活気や賑わいを見せるまち

〈新たに備える機能・要素〉

名古屋城や重要文化財、ケヤキ並木などを眺められるビューポイント
建て替え時の建物の意匠や通りの景観などのまちづくりルール
（歴史的な雰囲気と近代的なデザインが調和するなど）
地区のブランド化

など

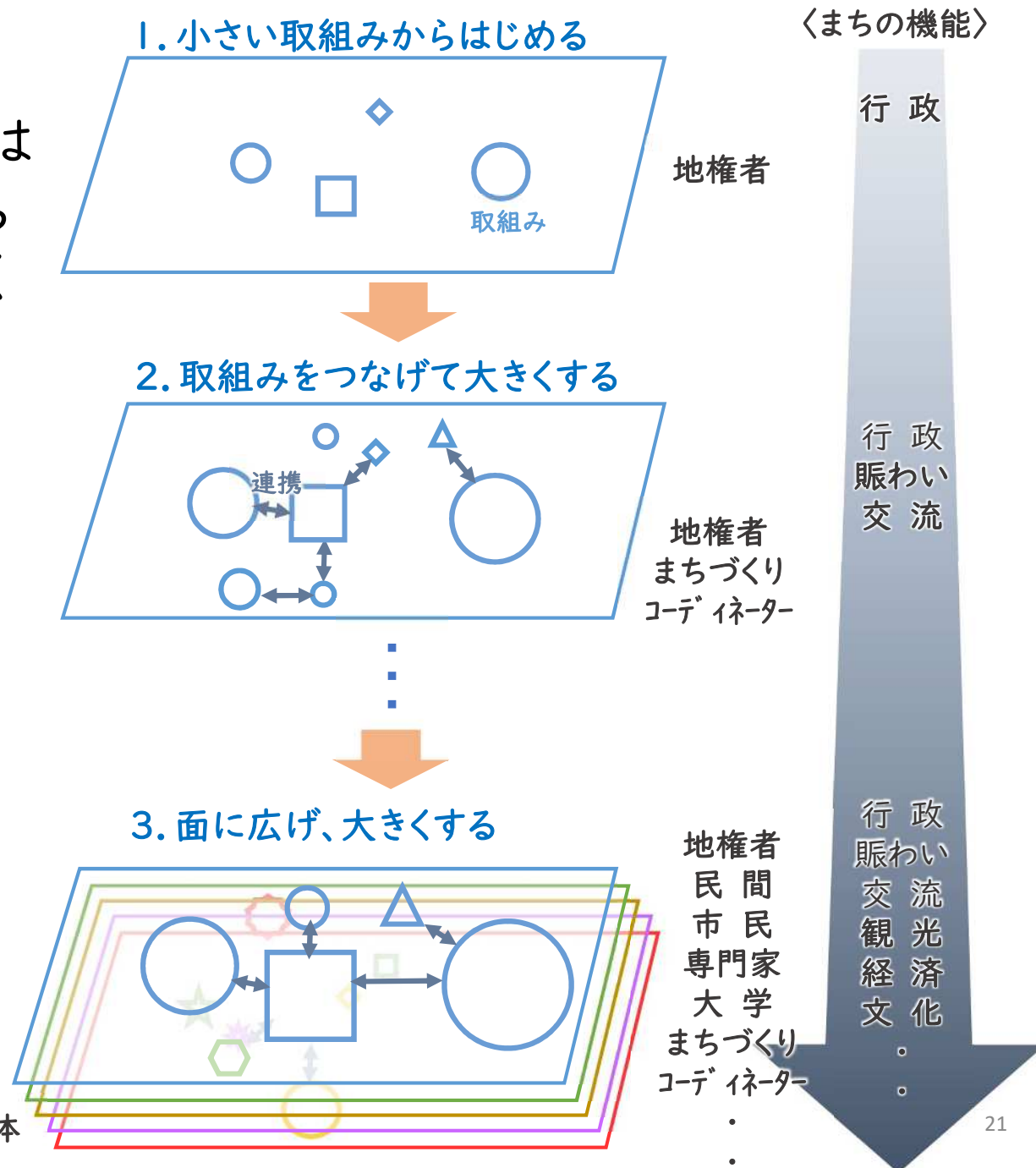
5. めざすまちの実現に向けて

○まちづくりの進め方

国・県・市などの行政機関だけではなく、多様な主体を増やしながら段階的にまちづくりを進めていく

1. できるところ・小さい取組みからはじめる
2. 取組みを連携して少しずつ大きくしていく
3. まちに関わる主体を増やし、まちの機能を創出し、まちづくりを推進していく

(注) レイヤー：まちづくりの主体

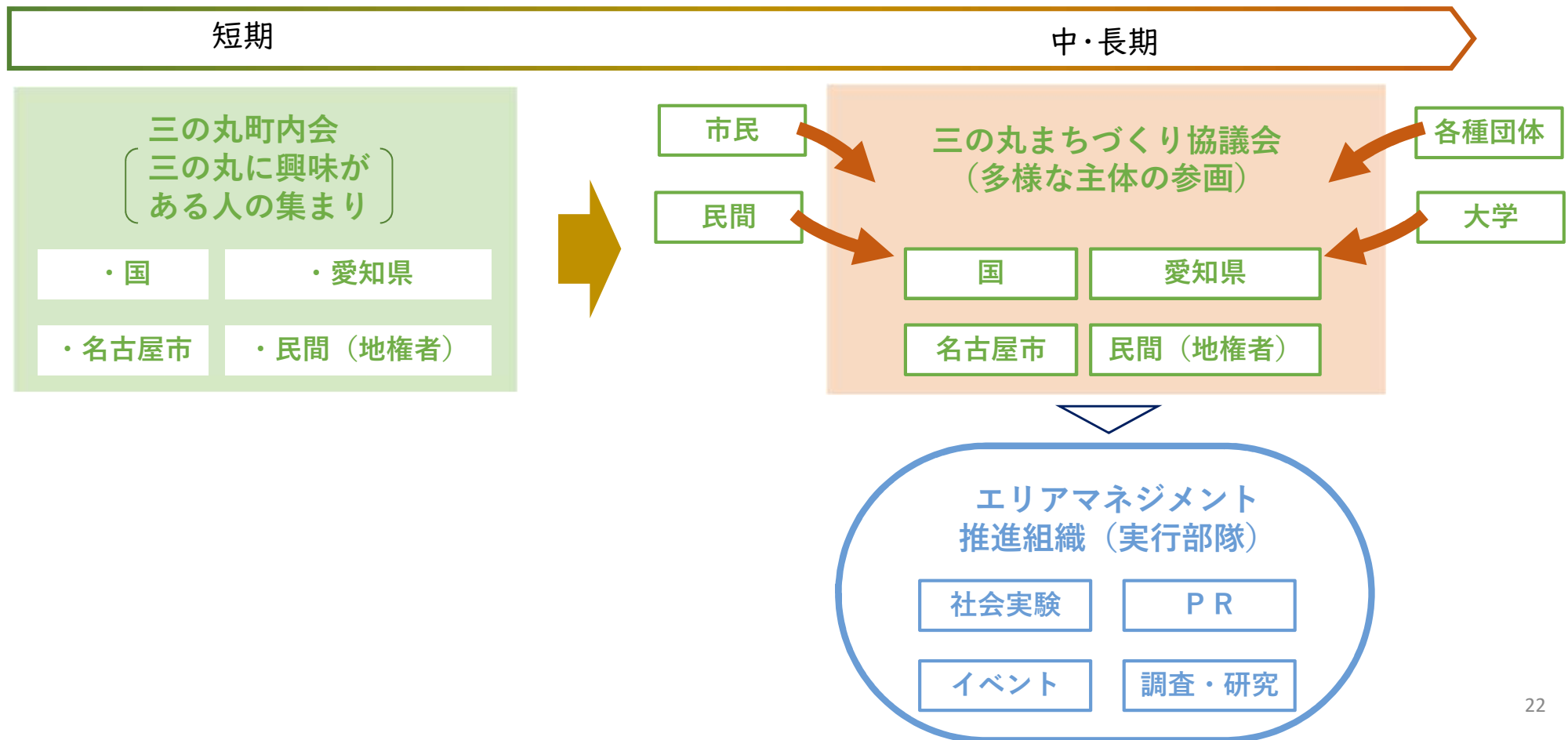


5. めざすまちの実現に向けて

○組織・推進体制

多様な主体が参画するまちづくり協議会を構築し、まちづくりを推進

- ・三の丸に興味がある人から、徐々に外部の主体を巻き込みながら、多様な主体でまちづくりを協議・検討するまちづくり協議会を組成。
- ・その方針のもと各種の取組（情報発信、魅力的な空間の形成など）を実践するエリアマネジメント推進組織を設置。



5. めざすまちの実現に向けて

○ロードマップ

めざすまちの実現に向け、段階的にまちづくりを推進

構想
策定

短期（約5年間）

視点：
既存ストック利活用

- 既存ストック利活用等によるアクション
 - 構想実現に向けた組織・推進体制の構築
 - まちづくりに対する機運醸成
- 【アクションの例】
- ・地域資源を活用した社会実験の実施・内容の拡充
 - ・まちづくり組織構築に向けた勉強会（規制のあり方、連携イベントなど）
 - ・まちづくり・都市デザインの募集など

リニア
開業

中期（約10年間）

視点：
エリア価値向上

- 組織・推進体制の強化（多様な主体の参画、アクション充実）
- 事業化の目途が立った事業の先行実施
- 長期を見据えた公共空間への先行投資や地区内の規制の見直し検討

長期（約15年間）

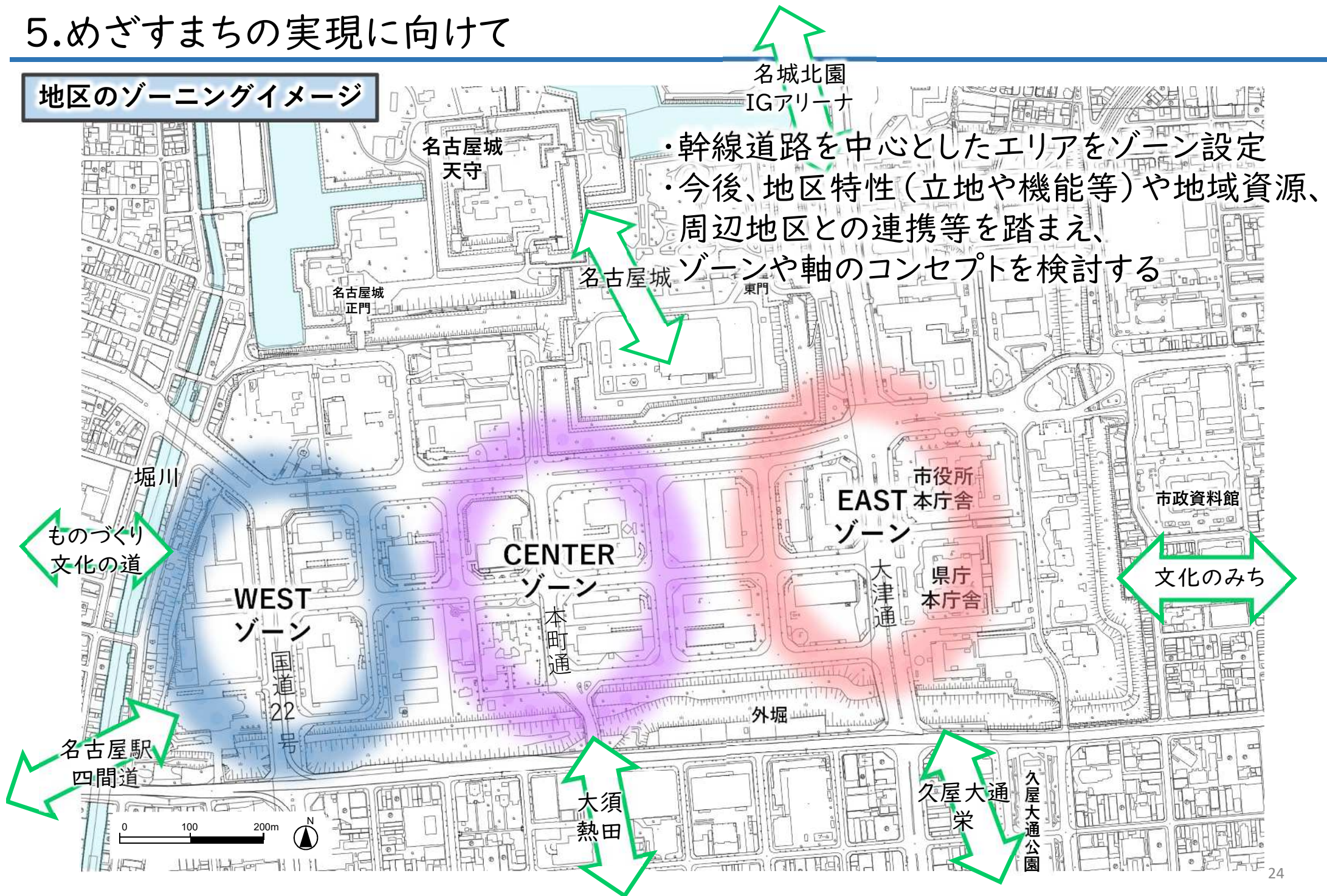
視点：
民間投資誘導

- 組織・推進体制の強化（多様な主体の参画、アクション充実）
- めざすまちの実現に向けた公民連携等による事業の実施
- 地区の新たな建築ルール等の運用

2050年

5.めざすまちの実現に向けて

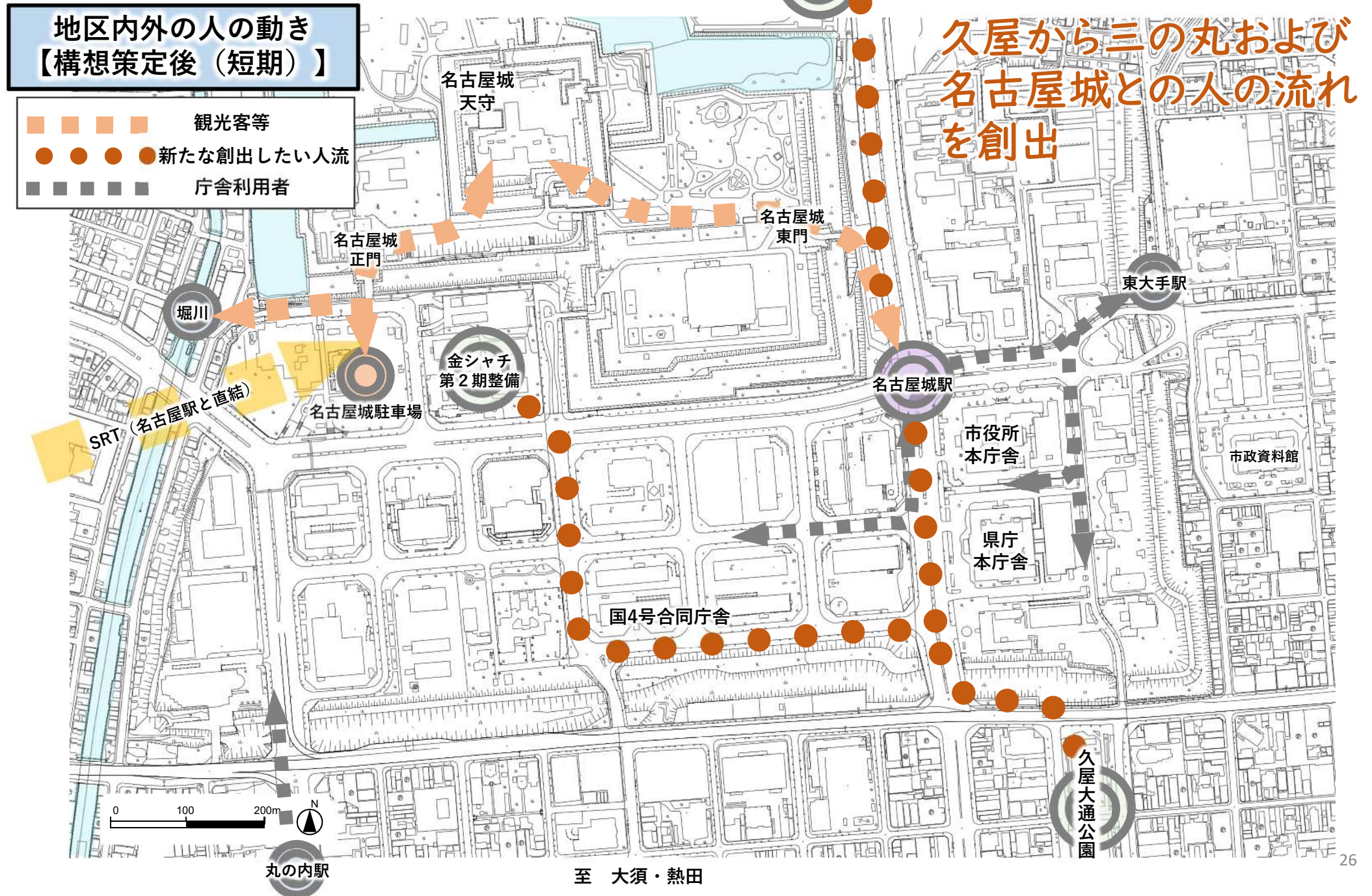
地区のゾーニングイメージ



5. めざすまちの実現に向けて



5. めざすまちの実現に向けて



5. めざすまちの実現に向けて

○アクションプラン（短期）

【短期（～R12）における地区内及び周辺の主な動き】

- ・名古屋第4地方合同庁舎の供用開始
- ・SRTの運行開始による名古屋駅地区との利便性向上
- ・IGアリーナ開業による来訪者の増加
- ・金シャチ第2期整備（多目的休憩所）による新たな賑わいの創出



名古屋第4地方合同庁舎整備イメージ
（出典：中部地整HP）

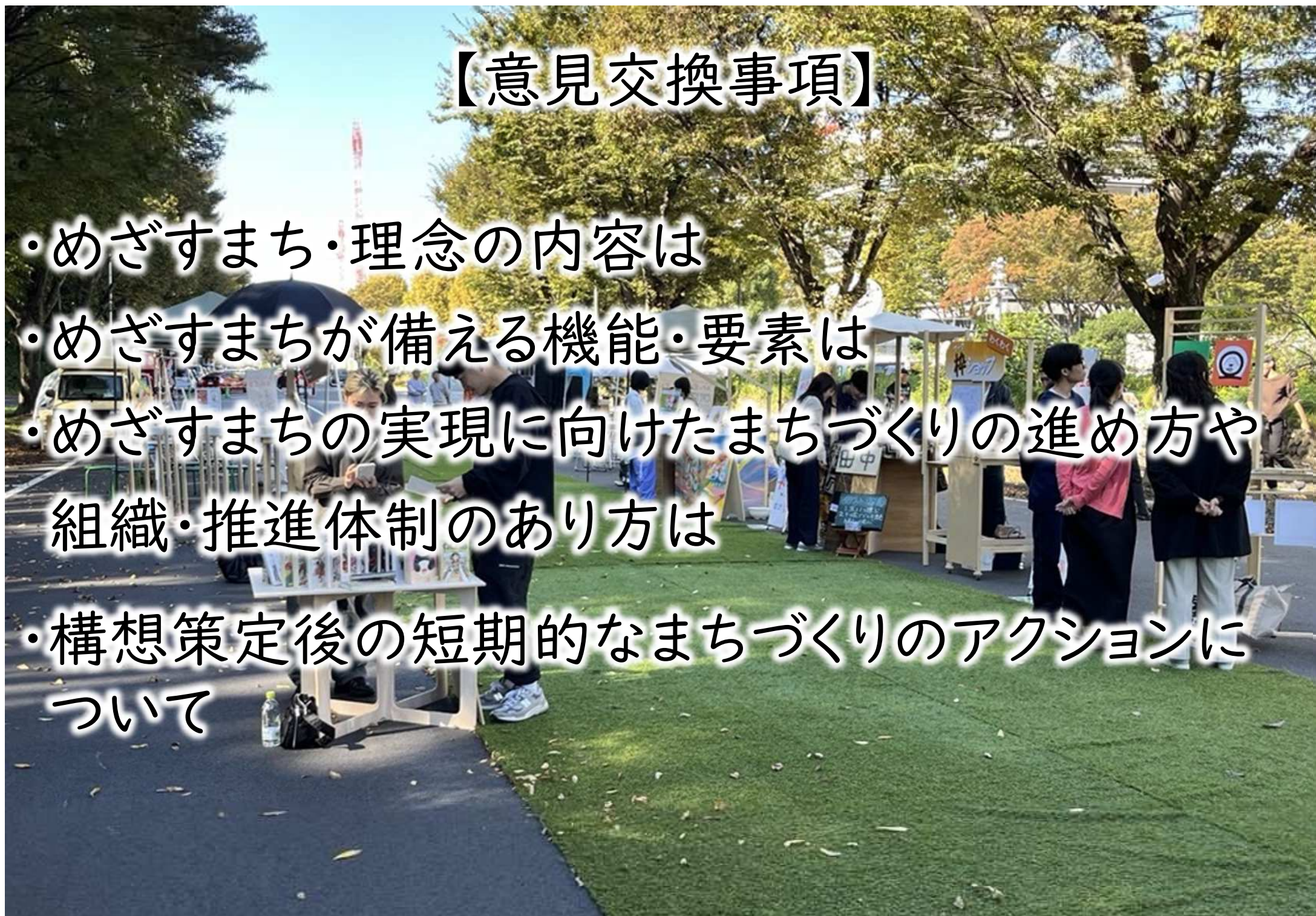


IGアリーナイメージ
（出典：IGアリーナHP）

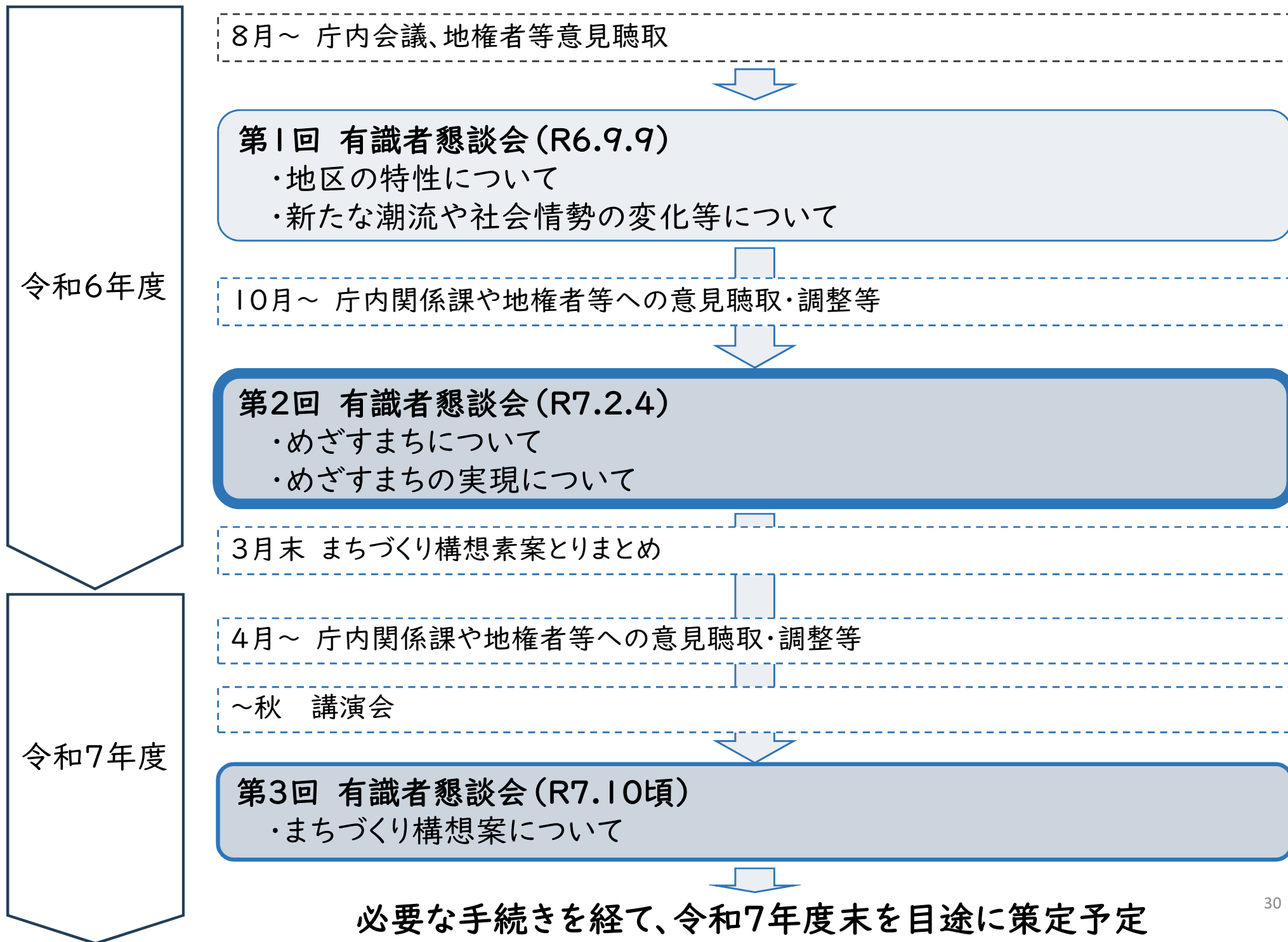
短期（概ね5年後）における変化	アクションの内容など	実施主体（例）	関連するめざすまちNo.
まちづくりに対する機運醸成 （三の丸のファンを増やす）	○まちづくり・都市デザインのアイデア募集 ○SNSや既存イベント等を活用した情報発信	市	—
地権者間のつながりの創出 （まちづくりのスタート）	○まちづくり組織構築に向けた勉強会 まちづくり町内会の構築	地権者 まちづくり コーディネーター	—
観光客へのおもてなし向上や 庁舎利用者のQOL向上	○城の眺望確保に向けた検討 ○既存ストック活用等によるアクション 〔 地域資源の掘り起こし及び庁舎活用 検討イベント実施 〕	市 地権者	4,5,6,7

【意見交換事項】

- ・めざすまち・理念の内容は
- ・めざすまちが備える機能・要素は
- ・めざすまちの実現に向けたまちづくりの進め方や組織・推進体制のあり方は
- ・構想策定後の短期的なまちづくりのアクションについて



議事2. 今後の進め方



三の丸チャレンジ(社会実験)結果

○「三の丸チャレンジ」～賑わい創出イベント～

○概要

〈期間〉令和6年11月2日(土)～3日(日)

〈場所〉本庁舎駐車場【A】、県西庁舎南側道路【B】

〈目的〉

- ・新たな来街者や人の流れの創出
- ・地区のPR等により構想策定に向けた機運醸成
- ・地区へのニーズ、課題の把握

〈主な内容〉

※【 】内は開催場所

- ・11/2(土) ストリートピアノ 【A】
楽器を活用したワークショップ 【A】
- ・11/3(日) ストリートピアノ 【A】
メディ屋台 【B】

(名古屋学芸大学と連携した人のつながりを生み出す屋台)

〈位置図〉



〈当日の集客策〉

デジタルサイネージを設置して生配信等の告知を行い、周辺施設からの集客を促した。

設置:市役所本庁舎駐車場【A】、金シャチ横丁(宗春ゾーン)、オアシス21(地下広場)

○当日の様子



○「三の丸チャレンジ」～賑わい創出イベント～

●来場者数

・イベント2日間で合計1,000人の来場

	A:市庁舎 駐車場	B:県西庁舎 南側道路
11/2(土) 雨	118人	
11/3(日) 晴	464人	418人
合計	1,000人	

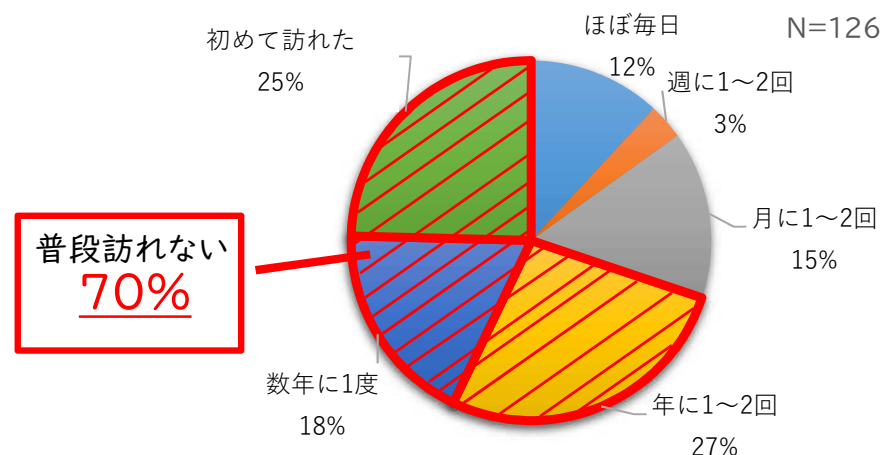


図1:官庁街への来訪頻度

○考察

- ・来場者のうち70%が普段は三の丸地区を訪れない人々であった。
- ・イベント(文化のみちを含む)を目的として来場した人が、全体の66%を占めていた。
- ➡このようなイベントは、地区への新たな来街者の獲得につながると考えられる。

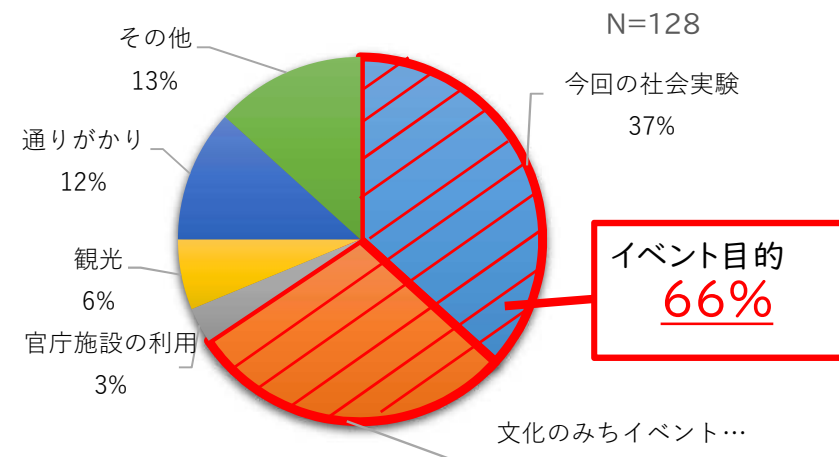


図2:今回のおでかけの目的

調査結果取りまとめの協力:UR都市機構

○「三の丸チャレンジ」～賑わい創出イベント～

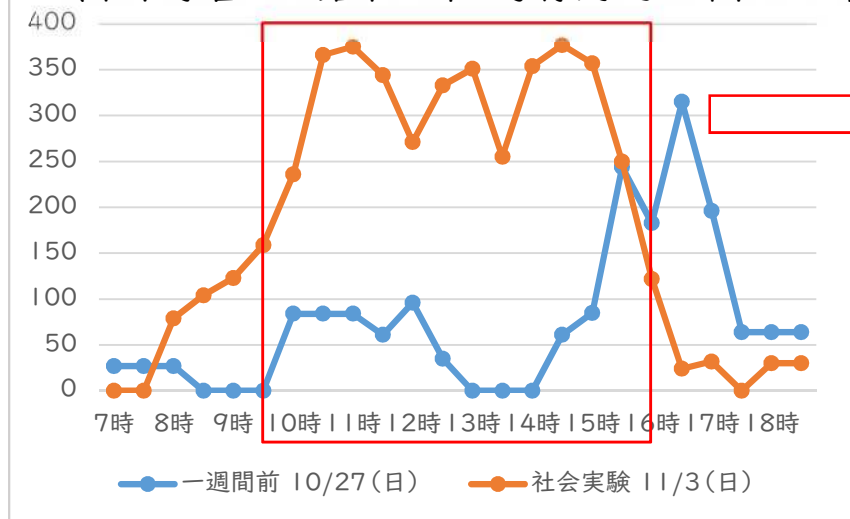
○人流調査結果(注1)

●15分以上の滞在人口(注2)

→市本庁舎や公館東西第1号線周辺で滞在人口が増加



〈市本庁舎&公館東西第1号線周辺の滞在人口〉



社会実験時の滞在人口(10時～16時の合計)は、一週間前と比較して約5倍に増加

社会実験11/3(日)	1,944人
一週間前10/27(日)	349人

約5倍

(注1) KDDI Location Analyzerを用いてUR都市機構が作成
11/3(日)のデータは速報値(10/27(日)は確定値)

(注2) 10/27(日)は15:05よりプロバスケットチームの試合あり

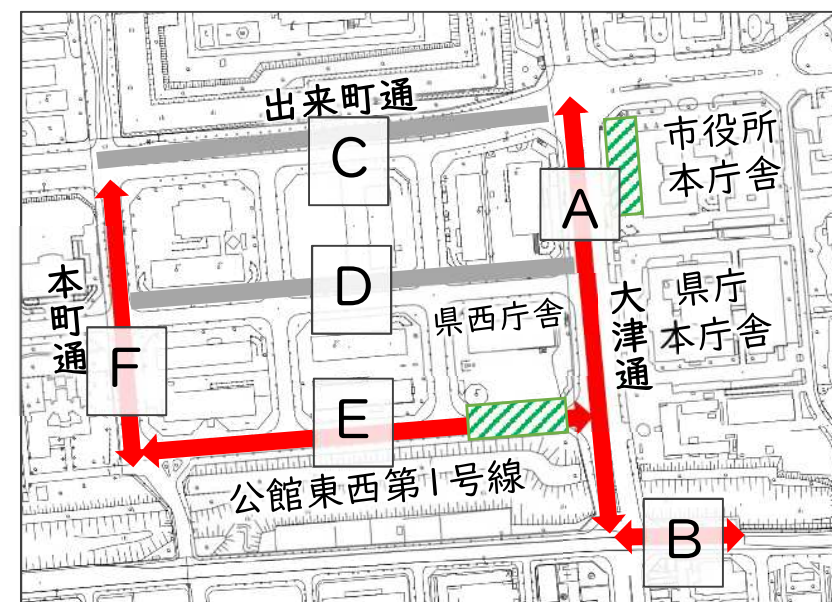
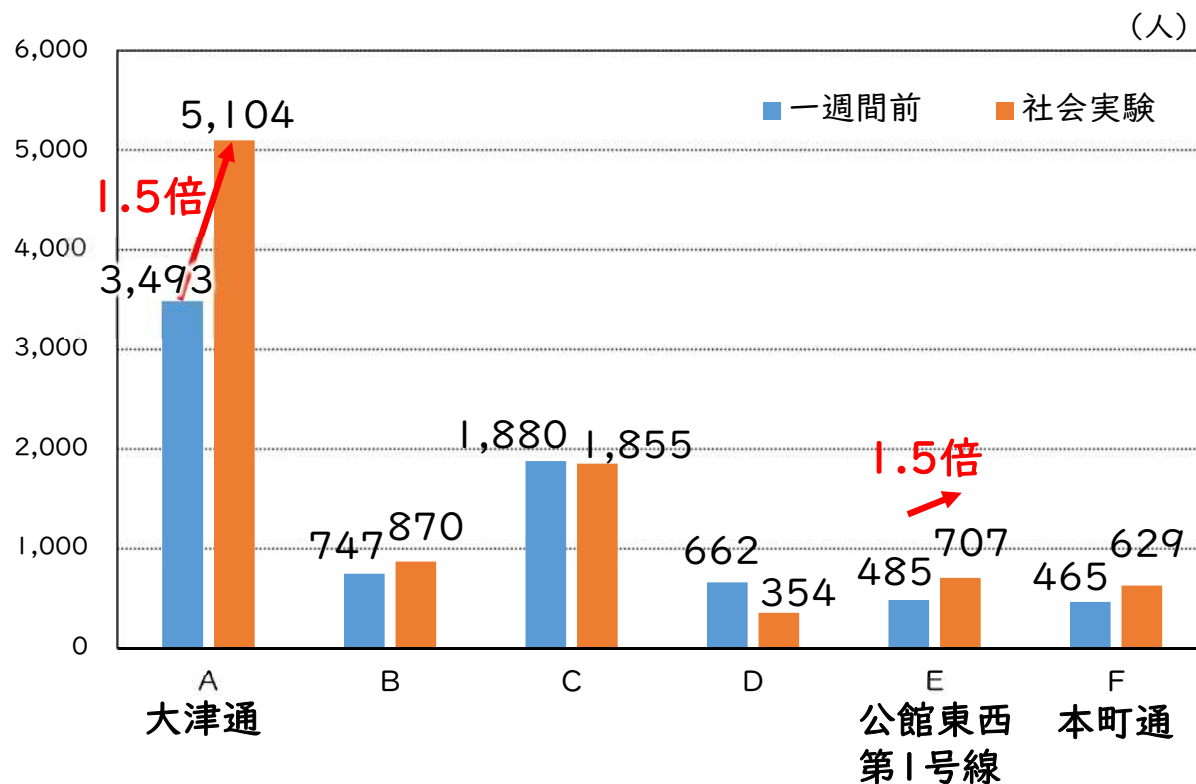
○「三の丸チャレンジ」～賑わい創出イベント～

○人流調査結果(注1)

●歩行者通行人口(注2)

- ・大津通と公館東西第1号線周辺は一週間前と比較して約1.5倍に増加

(⇒久屋大通公園～三の丸～名古屋城間の人流が増加)



⇔ : 一週間前の通行人口 < 社会実験の通行人口

(注1) KDDI Location Analyzerを用いてUR都市機構が作成
社会実験のデータは速報値(一週間前は確定値)

(注2) 時速8km以下の移動、10時～16時の2日分の合計
両側歩道かつ双方向のデータ(出来町通は除く)

○「三の丸チャレンジ」～賑わい創出イベント～

●三の丸地区へのニーズ

- ・ 回答者の半数以上が地区に求める機能や空間として、「**くつろげる空間**」、「**休憩できる空間**」を挙げた。
年代や性別などの項目別ごとに見ても、どれも3割以上の回答であった。
- ・ その他にも、「お城や文化財が見られる空間」、「文化・芸術に親しむ施設」、「ゆったりと時間を過ごせるカフェ」など全体で3割以上の回答あり。
- ・ これらの結果から、地区には**城や文化財が見られ、憩える空間**が求められていると考えられる。
- ・ また、空間の変化に対して、ほとんどの人が**高評価**であった。

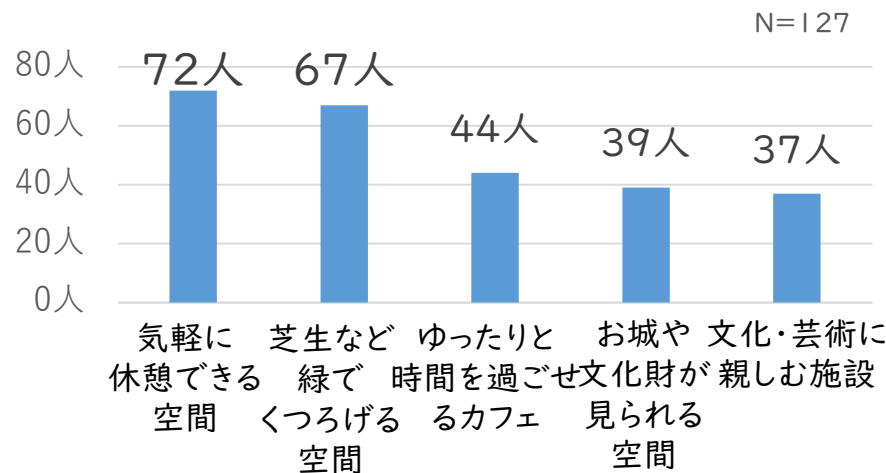


図3:官庁街以外の機能や空間としてほしいもの

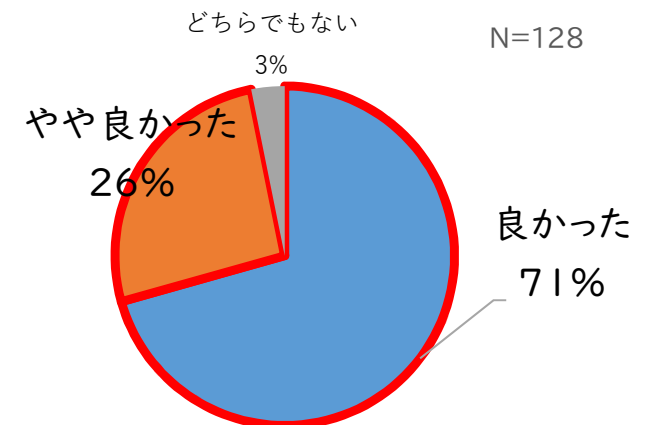


図4:今回の社会実験で空間を変えたことによる評価